

単独支援給付金・事業計画書(単独病床機能再編計画)

資料3-4

1 申請者の情報		申請年月日	2024年9月25日
フリガナ	ヤマグチヘイセイビョウイン	住所・所在地	山口県岩国市玖珂町11340番地
医療機関の名称	山口平成病院		

2 病床削減の概要(予定含む)

<許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計※2
1	①平成30年度病床機能報告における許可病床数	0	0	46	104	0	150	104
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその許可病床数 ※1	0	0	0	0	0	0	0

※1 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は「1②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※2 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

<稼働病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
2	①平成30年度病床機能報告における稼働病床数	0	0	46	104	0	150	104
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその稼働病床数 ※3	0	0	0	0	0	0	0

※3 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「2②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

<病床削減後の許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
3	病床削減後の許可病床数	0	0	48	92		140	92

<他の医療機関との病床融通>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
4	他の医療機関との病床融通数 ※4	0	0	0	0	0

※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の病院等へ病床が移転しようとする場合に記載すること。

また、「(参考)病床移転にかかる概要」に関連する病院等の病床数を記載すること。

<対象3区分から回復期又は介護医療院へ転換した病床数>

		回復期	介護医療院	合計
5	削減病床のうち、回復期又は介護医療院へ転換した病床数	2	1	3

<年間在棟患者延べ数(人)>

		高度急性期	急性期	慢性期	合計
6	①平成30年度病床機能報告における対象3区分の病棟の年間在棟患者延べ数(人) ※5	0	0	37,523	37,523
	②令和2年4月1日時点年間在棟患者延べ数(人) ※6・7	0	0	0	0

※5 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数=年間在棟患者延べ数((48)欄に記載された数値)×12÷報告可能な対象期間(月単位)

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成29年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位)=6

※6 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「6②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※7 令和元年度病床機能報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は令和元年度病床機能報告の数値を計上すること。

変更がある場合は、変更後令和2年4月1日までの在棟患者延べ数を※5を参考に算定して計上すること。

3 病棟別内訳(予定含む)

【変更前の状況(R2.4.1まで)】

変更前	病棟別内訳 (病床機能報告から転記)	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		1病棟	療養病棟入院基本料 I	慢性期	52床	52床
		2病棟	療養病棟入院基本料 I	慢性期	52床	52床
		3病棟	回復期リハビリテーション病棟入院料 I	回復期	46床	46床
計					150床	150床

※ 平成30年度の病床機能報告を転記することを原則とするが、平成30年度の報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数等に変更がある場合は変更後の病床数等を記載すること。



【令和6年度】

R6 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		1病棟	療養病棟入院基本料 I	慢性期	48床	R7年 3月
		2病棟	療養病棟入院基本料 I	慢性期	44床	R7年 3月
		3病棟	回復期リハビリテーション病棟入院料 I	回復期	48床	R7年 3月
計					140床	



【令和7年度以降】(変更がない場合や計画が未定の場合は、「以後変更なし」「未定」等と記載のこと)

R7 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
		①以後変更なし				年 月
		②				年 月
		③				年 月
計					床	
R8 年度	病棟別内訳	①				年 月
		②				年 月
		③				年 月
		計				

※病棟別内訳の数が不足する場合は適宜追加すること。

※計画完了時には「休棟等」がすべて削除され、存在しない状態となっていること。

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

対象医療機関名 山口平成病院

1 地域の状況		
地域の現状と課題	岩国保健医療圏において、令和5年度病床機能報告での病床数は高度急性期、急性期と慢性期は令和7年度必要病床数に比較し、過剰であり、回復期は不足である。地域医療構想の区域における過不足の是正、地域の回復期医療の需要増に対応すべき提供体制を整える必要がある。	
2 自施設の状況		
自施設の現状(変更前)	地域において同規模の慢性期機能の医療機関が複数あり役割が重複している。当院は他院と比較し、慢性期としては入院期間が短くリハビリを求められる患者の比率が高い。待機患者も回復期機能を希望される方が多く、在宅復帰を目指す方が多数を占める。	
病床数の見直し	見直しの考え方	近隣の医療機関と重複する慢性期機能を見直し、今後需要が高まり不足が見込まれるリハビリ機能に備えた病床へ見直す
	対象の病棟・病床の概要	慢性期病床、回復期病床ともに急性期後の在宅復帰を目指す患者を対象とした医療やリハビリを提供する医療機関であり、慢性期病床は療養病棟入院基本料Ⅰを回復期病床は回復期リハビリテーション病棟入院料Ⅰを算定する
	入院患者への対応	徐々に療養病棟の入院を減らして調整
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	地域における病床機能の状況は慢性期が過剰、回復期が不足であることや、当院に求められる地域ニーズを踏まえ、慢性期病床(療養病棟)を削減し、一部を回復期(回復期リハビリ病棟)へ転換する見直しが地域医療構想の実現に資する	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R7	変更時期	計
高度急性期			
急性期			
回復期	2	R7.3	2
慢性期	△ 12	R7.3	△ 12
合計	△ 10		△ 10

※慢性期12床のうち2床は回復期、1床は介護医療院に転換予定のため、補助金の支給対象外

【参考：R5病床機能報告(岩国保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	介護保険施設 移行予定	合計
報告	①R5(2023)現状	268	467	194	682	69		1,680
	②R7(2025)予定	266	479	235	663	9		1,652
構想	③R7(2025)必要数	131	419	446	505			1,501
④構想との差(R5)(①-③)		137	48	△ 252	177			110
⑤構想との差(R7)(②-③)		135	60	△ 211	158			142